

胡蝶舞う浄土

《紺紙金字法華經 卷五(平基親願經)》治承4(1180)年 新収蔵・当館初公開



絵画が紡ぐ 物語



クロード・モネ《雪中の家とコルサス山》1895年 当館蔵

2021年1月23日㈯—4月18日㈰

会期中無休

開館時間 | 午前9時30分—午後4時30分(入館は午後4時まで)

入館料 | 大人 1,000円／学生 500円／高校生以下無料

* 佛教館・近代館の共通券です * 団体10名以上は10%割引

*uehara
collection*

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

2021年1月23日㈯—4月18日㈰

会期中無休

開館時間 午前9時30分—午後4時30分(入館は午後4時まで)

入館料 大人 1,000円／学生 500円／高校生以下無料

* 佛教館・近代館の共通券です * 団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

*uehara
collection*

胡蝶舞う浄土

上原コレクション名品選4

経巻を紐解くと、見返しには蝶と迦陵頻伽(極楽浄土に住むという鳥)に仮装した二人の童子が舞い、濃紺の料紙に金泥で書写された経文は、夜空の星のような輝きを放ちます。美麗な装束をまとう童子の豊かな頬は赤らみ、足元の銀の輝きは二人にスポットライトを当てるかのようです。平安の華麗なひと時を垣間見せてくれる経巻。このたび上原美術館は、この美麗な装飾経を収蔵、初公開いたします。本経は平安末期から鎌倉初期の高位の貴族、平基親が制作したもので、平基親願経といいます。平基親願経は妙法蓮華経を書写した、もと十巻からなるもので、本経はこのうちの第五巻になります。巻末の奥書きから、治承4(1180)年、平基親自らが書写したものであることが分かります。本展では後陽成天皇の第十皇子、尊覚親王が承応元(1652)年に書写した「唯識三十頌」も初公開するほか、中尊寺経など紺紙金字経の優品もご紹介します。また、当館所蔵の平安、鎌倉時代の仏像もあわせて展示いたします。

*uehara
collection*



紺紙金字法華経巻五(平基親願経) 治承4(1180)年



阿毘達磨俱舍論巻第二十六(中尊寺経) 平安時代後期 重要美術品

十一面觀音像 平安時代
重要美術品
阿彌陀如來像 鎌倉時代

- お車で 東名高速道路 沼津ICより 下田方面へ 1時間40分
- 鉄道・バスで 東京駅より特急踊り子号 2時間40分 伊豆急下田駅下车 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp



クロード・モネ《雪中の家とコルサース山》1895年

コレクター上原昭二が半世紀以上をかけて集めた絵画コレクションには、画家たちのユニークな物語やエピソードをもつ作品が集まっています。それらの中には、作家同士の交流が育んだ作品だけでなく、過去や同時代の作品との出会いによって制作されたものも数多くみられます。本展では、こうした絵画の生まれるきっかけとなった画家や作品との出会いが紡いだ物語を、モネたち印象派の作品などからご紹介します。

印象派を代表する画家クロード・モネは、葛飾北斎や歌川広重らの浮世絵を通じて日本の富士山を知り、日本らしさを代表するこの山への憧れを抱いてきました。そうした思いは、ノルウェーに滞在した折に、雪の積もるコルサース山を富士山に見立てた

上原コレクション名品選4

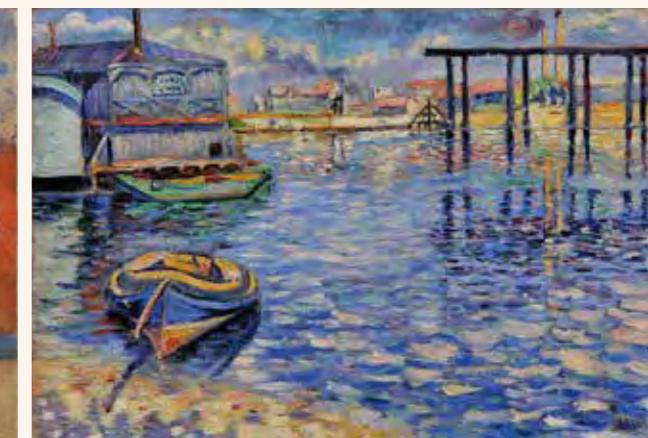
絵画が紡ぐ物語

連作として結実します。当館が所蔵する《雪中の家とコルサース山》もそうした連作のひとつであり、モネが愛蔵した北斎『富嶽三十六景』などの浮世絵は、彼が新たな作品を生み出すきっかけとなりました。こうしたエピソードは、作品に秘められた背景を明らかにし、モネが雪山に込めた日本への深い愛着を我々に教えてくれます。

本展示ではそのほか、ルノワールがモネとともに印象派絵画の表現を模索した《アルジャントゥイユの橋》、ゴッホが私淑したミレーの版画を模写した《鎌で刈る人(ミレーによる)》、ドランがセザンヌ風の色彩と造形を試みた《レ・レックの森の中》などから、絵画が紡いだ物語をお楽しみください。



オディロン・ルドン《ダンテとベアトリーチェ》1914年頃



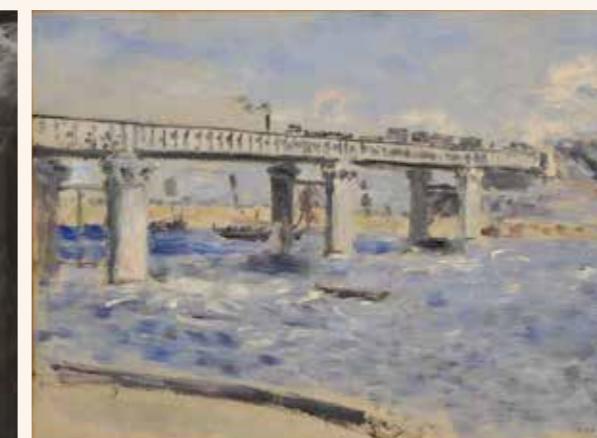
ポール・シニャック《アニエール、洗濯船》1882年



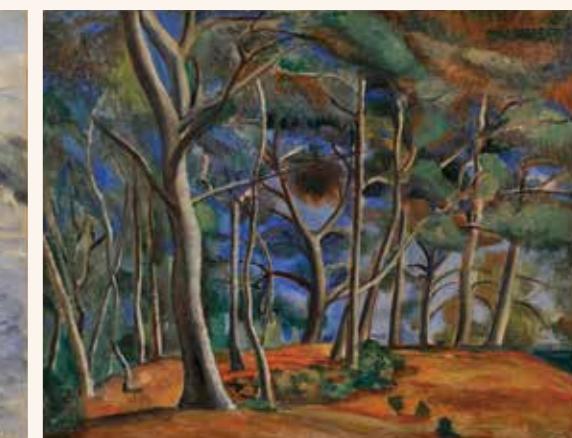
フィンセント・ファン・ゴッホ《鎌で刈る人(ミレーによる)》1889年頃



オディロン・ルドン《光のプロフィール》1886年



オーギュスト・ルノワール《アルジャントゥイユの橋》1873年



アンдре·Дран《レ・レックの森の中》1922年頃